

1270 | **工芸工業デザイン基礎 I**

3 単位（通信授業 1 単位、面接授業 2 単位）

（平成 30 年度をもって金工・木工クラスは廃止）

田中克明教授、牧野良三教授、十時啓悦教授、鈴木洋教授、西川聡教授、鈴木純子准教授、桜井隆樹講師、山本博一講師、萩原千春講師、高橋勇一郎講師

授業の概要と目標

この科目は、工芸工業デザイン学科において最初に学習する造形専門科目となっている。学科の必修科目ではあるが、スペースデザインコースと生活環境デザインコースプロダクトデザイン系は同じ題材に取り組み、生活環境デザインコースクラフトデザイン系各クラスにはこの科目から各素材別課題に取り組み。つまりここから、各自が目指す専門の学習に入る。スペースデザインコースと生活環境デザインコースプロダクトデザイン系の同じ題材とは、スペースと生活環境、いいかえれば空間とモノ、それぞれの立場で同じ題材に取り組みをいう。そうすることで、各自が、両者の関係性について包括的に考え、広い視野を獲得することを期待する。

※なお、生活環境デザインコースクラフトデザイン系の金工クラス、木工クラスについては、平成 28 年 4 月以降の入学生は選択不可。平成 27 年 10 月以前の入学生については選択可能だが、当該クラスの開講は平成 30 年度までとなるので注意すること。

課題の概要

課題はスペースデザインコースと生活環境デザインコースに分かれ、生活環境デザインコースはプロダクトデザイン系、クラフトデザイン系の各素材別クラスに分かれて行う。

〈スペースデザインコース〉

通信授業では自宅周辺のミニパークを選定し、その利用実態や空間の機能を調査分析する。周辺環境との関係、自然の在り方、地域にとっての価値およびその可能性なども考察し、マップやスケッチでレポートを提出する。面接授業では、地域の環境の中で求められる空間の在り方を重視した公園のプランニングおよびデザインングについての実習を行う。面接授業内では、事例の見学を予定している。（見学は初日の午後に実施される場合もある。初日の前提講義内で説明予定。）

〈生活環境デザインコース〉

プロダクトデザイン系

通信授業では自宅周辺のミニパークを選定し、その設備や空間プラン、地域的な役割や利用状況を観察・調査・分析して、マップやチャートで提出する。面接授業では作成した資料を基に主に設備や機器をデザインする。

クラフトデザイン系

・テキスタイルクラス

面接授業において、写真撮影によるテーマ対象となる素材の収集。触覚とサーフェイスというテーマのもとに、素材をイメージ化し、織りによるテクスチャー表現研究を行う。通信授業では、写真撮影によるテーマ対象となる素材の収集。素材を無彩色、及び有彩色によるイメージ化をし、テキスタイルとしての使用例を提案する。

・陶磁クラス

通信授業では板づくり技法による器物と装飾に関する調査をし、まとめる。それを参考にして、板づくり技法と印と象嵌による装飾を施した日常的な用途の器物のアイデアスケッチをする。

面接授業では、アイデアスケッチを基に、さらにデザインを検討して板づくり技法と印と象嵌による器物を制作する。

・金工クラス ※平成 28 年 4 月以降の入学生は選択不可

面接授業において、銅板を材料とし鍛金による蓋付き容器の制作をする。通信授業では、面接授業で制作した蓋に糸ノコで透かし模様を施し提出する。

・木工クラス ※平成 28 年 4 月以降の入学生は選択不可

椅子の実測製図とスツールの制作

- ・面接授業では、椅子の実測製図とスツールの制作を行い、木工製品の製図の基本を学習し、製図と実際の制作との関係、製図と加工方法の基礎を学習する。
- ・通信授業課題では名作椅子の調査・分析を行いレポートに纏める。

*課題については学習指導書『工芸工業デザイン基礎Ⅰ・Ⅱ 平成 30 年度』を必ず参照すること。

授業計画

生活環境デザインコース
プロダクトデザイン系
クラフトデザイン系
陶磁クラス
スペースデザインコース

通信授業



面接授業

生活環境デザインコース
クラフトデザイン系
(陶磁クラス以外)

面接授業



通信授業

[面接授業]

各コース、クラスにわかれて面接授業の出題及び説明が行われる。
スペースデザインコース、生活環境デザインコースプロダクトデザイン系ではミニパークをテーマに課題に取り組み最終日に発表、講評となる。
生活環境デザインコースクラフトデザイン系素材別各クラスではそれぞれのクラスで設定された課題で実材による作品制作を行い、最終日講評となる。

[通信授業]

- 生活環境デザインコースプロダクトデザイン系、クラフトデザイン系・陶磁クラス、スペースデザインコース
学習指導書をよく確認し、制作すること。課題は面接授業初日に必ず持参すること。
- 生活環境デザインコースクラフトデザイン系(陶磁クラス以外)
面接授業をふまえ、それぞれのコース、クラスごとにデザイン作業を完成させ提出する。
詳細は面接授業最終日に説明する。

成績評価の方法

面接授業と通信授業の総合評価。

履修条件及び履修年次

- [履修年次] 3 年次
[履修条件] 「プロダクトデザインⅠ・Ⅱ」または「インテリアデザインⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること(工芸工業デザイン学科 3 年次編入学生を除く)。
[備 考] 工芸工業デザイン学科各コース 3 年次必修科目。
クラフトデザイン系の素材別クラスを選択する場合は、1・2 年次において素材別基礎実習Ⅰ・Ⅱにおける、同素材実習を履修していることが望ましい。

教材等

教科書：横溝健志、田中克明編『生活環境デザイン』（武蔵野美術大学出版局 2003 年）
小石新八 監修『スペースデザイン論』（武蔵野美術大学出版局 2003 年）
横溝健志、小石新八 編『ドローイング・モデリング』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）
横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）
田中秀穂 監修『テキスタイル 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2007 年）
小松誠 監修『陶磁 発想と手法』（武蔵野美術大学出版局 2009 年）
十時啓悦 監修『木工 樹をデザインする』（武蔵野美術大学出版局 2009 年）
学習指導書：『工芸工業デザイン基礎Ⅰ・Ⅱ 平成 30 年度』
(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018 年)

その他

スペースデザインコースは学外見学を予定している。

1280 | **工芸工業デザイン基礎 II** | 3単位（通信授業1単位、面接授業2単位）
 （平成30年度をもって金工・木工クラスは廃止）

田中克明教授、牧野良三教授、十時啓悦教授、鈴木洋教授、西川聡教授、鈴木純子准教授、渡辺衆講師、谷浩二講師、富谷智講師、萩原千春講師、高橋勇一郎講師、中島良弘講師

授業の概要と目標

この科目は、工芸工業デザイン基礎 I に引き続き学科共通の造形専門科目となっている。学科の必修科目ではあるが、工芸工業デザイン基礎 I と同様にスペースデザインコースと生活環境デザインコースプロダクトデザイン系は同じ題材に取り組み、生活環境デザインコースクラフトデザイン系各クラスは各素材別課題に取り組む。

※なお、生活環境デザインコースクラフトデザイン系の金工クラス、木工クラスについては、平成28年4月以降の入学生は選択不可。平成27年10月以前の入学生については選択可能だが、当該クラスの開講は平成30年度までとなるので注意すること。

課題の概要

スペースデザインコースと生活環境デザインコースプロダクトデザイン系はインターフェイスをテーマに具体的な機器や空間を事例に研究を深めデザインの提案を行う。

生活環境デザインコースクラフトデザイン系は素材別にそれぞれの課題とする。

〈スペースデザインコース〉

面接授業では、空間のインターフェイスをテーマとした空間と人の出会いの場について考察する。授業の課題は、エキシビジョン（見本市）の企業のブースデザインの設計計画を実習する。

〈生活環境デザインコース〉

プロダクトデザイン系

面接授業において、機器やサービスのデザインをユーザーインターフェイスの観点から調査分析する。使用シーンにそって問題点や顧客要求を明確にする。その上でラフモデルによるデザイン立案と操作の評価を実施する。通信授業では面接授業で作成した提案を修正し再提案する。対象は「音楽・音声放送を一对多で楽しむ機器（ラジオ）」で、web等の技術を活用する新サービスも是とする。

クラフトデザイン系

・テキスタイルクラス

面接授業において、触覚のビジュアル化を体得する為のシルクスクリーン捺染の実習を行い、リピート効果およびペーパープランにおける表現技法を学習する。

通信授業では、面接授業で実習したパターン連続性による色彩効果を基に、色彩の面積比を考え、ストライプの分析研究を行う。

・陶磁クラス

通信授業において、ロクロ成形による製品の調査をしまとめる。それを基に飯碗を制作するためのアイデアスケッチをする。

面接授業では、アイデアスケッチを基にさらにデザインに検討を加え、ロクロ成形による飯碗を制作する。

・金工クラス ※平成28年4月以降の入学生は選択不可

面接授業において、鑄造によるペーパーウエイトの制作を行う。（平成27年度以前に「金工基礎実習 II」または「工芸Ⅳ（金工実習）」の受講者は鑄造によるデスクウェアの制作）。通信授業では鑄物製品の市場調査及びペーパープランを行う。

・木工クラス ※平成28年4月以降の入学生は選択不可

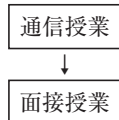
漆塗り仕上げによるサービストレーの制作

- ・通信授業課題では、木製食器及び漆塗りの調査・研究を行いレポートに纏める。
- ・面接授業では、サービストレーを制作し、漆塗り仕上げを行い、漆塗りの基礎的な技術を習得する。

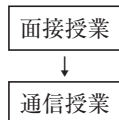
*課題については学習指導書『工芸工業デザイン基礎Ⅰ・Ⅱ 平成30年度』を必ず参照すること。

授業計画

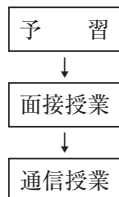
生活環境デザインコース
クラフトデザイン系
陶磁クラス、木工クラス



スペースデザインコース
生活環境デザインコース
クラフトデザイン系
テキスタイルクラス
金工クラス



プロダクトデザイン系

**[面接授業]**

各コース、クラスにわかれて面接授業の出題及び説明が行われる。
スペースデザインコース、生活環境デザインコースプロダクトデザイン系ではインターフェイスをテーマに課題に取り組み最終日に発表、講評となる。
生活環境デザインコースクラフトデザイン系素材別各クラスではそれぞれのクラスで設定された課題で実材による作品制作を行い、最終日講評となる。
※生活環境デザインコースプロダクトデザイン系は学習指導書をよく確認し、予習を行い、事前調査表を初日に持参すること。

[通信授業]

- 生活環境デザインコースクラフトデザイン系陶磁クラス・木工クラス
学習指導書をよく確認し、制作すること。課題は面接授業初日に必ず持参すること。
- スペースデザインコース、生活環境デザインコースプロダクトデザイン系、クラフトデザイン系テキスタイルクラス・金工クラス
面接授業をふまえ、それぞれのコース、クラスごとにデザイン作業を完成させ提出する。
詳細は面接授業最終日に説明する。

成績評価の方法

面接授業と通信授業の総合評価。

履修条件及び履修年次

- [履修年次] 3年次
[履修条件] 工芸工業デザイン基礎Ⅰの単位を修得しているか、同時に履修登録すること。
[備考] 工芸工業デザイン学科各コース3年次必修科目。

教材等

教科書：横溝健志、田中克明編『生活環境デザイン』（武蔵野美術大学出版局 2003年）
小石新八 監修『スペースデザイン論』（武蔵野美術大学出版局 2003年）
横溝健志、小石新八 編『ドローイング・モデリング』（武蔵野美術大学出版局 2002年）
横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局 2002年）
田中秀穂 監修『テキスタイル 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2007年）
小松誠 監修『陶磁 発想と手法』（武蔵野美術大学出版局 2009年）
十時啓悦 監修『木工 樹をデザインする』（武蔵野美術大学出版局 2009年）
学習指導書：『工芸工業デザイン基礎Ⅰ・Ⅱ 平成30年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018年）

その他

生活環境デザインコースプロダクトデザイン系は、グループワーク及び学外実習がある。

1840
1850

卒業制作

6単位（通信授業4単位、面接授業2単位）

田中克明教授、牧野良三教授、十時啓悦教授、鈴木洋教授、西川聡教授、鈴木純子准教授、高橋勇一郎講師、萩原千春講師、萩野美有紀講師、山本博一講師、富谷智講師、足立正講師、伊坂重春講師、中島良弘講師、渡辺衆講師、桜井隆樹講師

授業の概要と目標

工芸工業デザイン学科の各コースならびに選択領域において自由にテーマを設定し、選択した各領域で学習した内容を踏まえた総括的な提案を基本とする。

授業は、テーマの設定、デザイン、制作、提出といった流れの通信授業を、その間数回に渡って教員が、面接授業として直接チェックし指導するという形式をとる。面接授業は、担当の専門分野の教員と協議の上、2単位に相当する個人面接あるいはグループ面接の形で適宜分散して行う。

提出作品は、製品あるいはモデル、さらにはパネルによるプレゼンテーションなどあらゆる媒体を駆使した形で発表し、卒業制作展やWeb上で公表される。

※クラフトデザイン系の金工クラス、木工クラスについては、平成28年4月以降の入学生は選択不可。平成27年10月以前の入学生については選択可能だが、当該クラスの開講は平成31年度までとなるので注意すること。

課題の概要

生活環境デザイン、スペースデザインの各コースで学習した内容を踏まえ、各領域に於いて各自のテーマを自由に設定し、デザイン・制作しなさい。プロダクトデザイン系では、「生活環境計画Ⅰ」「生活環境デザイン研究」で学習した“エコデザイン”“ユニバーサルデザイン”等のテーマ、「生活環境計画Ⅱ」の各自のテーマを発展させて卒業制作のテーマにつなげていくことを推奨する。

授業計画

○通信授業

卒業制作のテーマ及びそのコンセプトの立案を最初の課題とし、その後はデザイン作業を深め卒業制作展示の形で発表する。

○面接授業

各自のテーマ及びそのコンセプトの検討、中間指導、展示および最終講評を内容とし、年間スケジュールに準拠した期日を目安に行う。担当教員との直接面談による指導を基本とするが、コース・クラス別合同の形が適宜設定される。

- ・クラフトデザイン系各素材別クラスは、鷹の台工房が主な会場となるが各クラスにより、吉祥寺校の場合もある。
- ・テキスタイルクラスは面接授業内で工場見学（岐阜）を行う。
- ・期日など詳細は学習指導書及び月刊誌『武蔵美通信』等を参照のこと。

成績評価の方法

各ステップでの学習状況を勘案し、卒業制作講評の結果で行う。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 4年次

[履修条件] 以下のすべての条件を満たすこと。

- ・工芸工業デザイン学科各コースに在籍していること。
- ・工芸工業デザイン学科各コース3年次必修科目をすべて修得していること（「学生ハンドブック」p.051の特例を除く）。
- ・工芸工業デザイン学科各コース4年次必修科目の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

[備 考] 工芸工業デザイン学科各コース4年次必修科目。

教材等

学習指導書：『生活環境計画Ⅰ・Ⅱ／生活環境デザイン研究／卒業制作 平成30年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018年）
『空間設計Ⅰ・Ⅱ／スペースデザイン研究／卒業制作 平成30年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018年）

その他

テキスタイルクラスは、学外見学（岐阜）がある。